

イチジクの首都圏出荷の定着・拡大

要約

- ・H30 設置の無加温ハウスで今年度から出荷が始まり、7月上旬から首都圏に販売。
- ・露地作型でも環状剥皮技術、早生品種導入による出荷時期の前進化への取組。
- ・降雨時には雨よけ可能な天開放ハウスへの改良による高品質生産への取組。

現状(背景)と課題

- ・首都圏市場では品質が評価されはじめ、百貨店等での取扱が開始。
- ・出荷開始が各産地の露地イチジクの出荷ピークと重なり、評価に比べ取扱単価が伸び悩む。
- ・首都圏出荷の利点を活かした単価の向上には、早期出荷が必要。



目標

首都圏出荷量	1.4 t → 2.0 t
環状剥皮実施者数	0名 → 6名
栽培品種数	1品種 → 2品種
天開放ハウス数	0棟 → 1棟

活動内容

- ・環状剥皮実証圃の設置 (3カ所、3名)
- ・果実の収穫節位の調査 (11回)
- ・ハウス側面より上部までの開放が可能な天開放ハウス実証圃の設置 (1カ所、1名)
- ・果実品質調査の実施 (10回)

成果

- ・今年度はハウス栽培の収穫が可能となり、昨年より一ヶ月早い7/4より出荷を開始。8月末までの出荷量は全出荷量の84%となり、前年の71%から大きく前進化。7月から継続した出荷により8・9月の単価は前年の単価の1.2倍
- ・環状剥皮による明確な効果得られず。2月に、「柵井ドーフィン」より収穫時期が1週間程度早い早生品種の「サマーレッド」を導入。
- ・慣行よりビニール除去を20日程度遅らせたが、高温による果実品質の低下は見られなかった。



イチジクのハウス栽培

出荷月	R1	R2	R3
7月	0.0	0.0	1.3
8月	0.5	1.0	0.8
9月	0.8	0.4	0.4
10月	0.1	0.0	0.0
合計	1.4	1.4	2.5

首都圏への月別出荷量(t)

北部農業振興事務所農業振興課
 担当：農産物ブランド推進第一係
 山本正文・大北修平
 チャレンジ品目支援事業
 首都圏での大和野菜等販路開拓事業

普及活動のポイント

- 早期出荷により、首都圏で産地としての優位性を引き出す取組であることを確認
- 産地として「サマーレッド」の導入や環状剥皮の実施など、収穫時期の前進化に向けた取組を実施。
- ビニール除去時期を梅雨明けまで延ばすことによる果実の高品質生産。
- 実証圃を設置することにより、技術や品種の導入による効果を生産者自らの圃場で体感。

対象の変化

- 新技術、新たな品種の導入による収穫時期の前進化へむけ積極的な取組。
- 高品質生産に向け、高温や降雨が果実品質に及ぼす影響を再確認。

対象者からのコメント

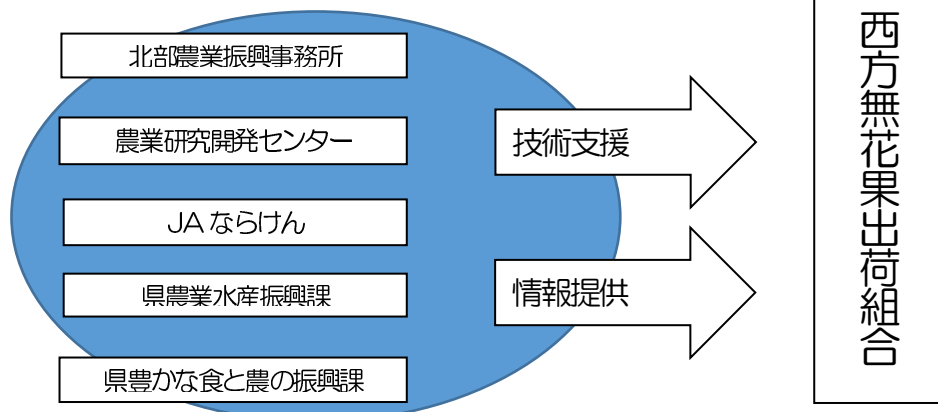
- 収穫時期の前進化や高品質生産は、イチジクの有利販売につながる取組。
- ビニール除去時期は、夏場の気温の年次変動も大きいので次年度以降も引き続き検証を期待。

これからの活動ビジョン

首都圏出荷量は伸びてきているが、高品質、安定出荷のため

- 環状剥皮：実施時期や剥皮の幅を変更し再検討
- 早生品種の「サマーレッド」の生育状況や収穫時期、果実品質等の調査
- ビニール被覆の除去時期の違いによる品質への影響については、来年度、再度確認

活動体制



用語解説

環状剥皮

環状剥皮とは果実品質向上や収穫時期の前進化などを目的に枝の樹皮部分を 1cm 程度環状に剥ぎ取る技術。

